

# 萬翠莊と松山三日間（要旨）

〈日本文学科四年〉 大森 愛弓・三浦 里奈・山本久美子

〔初日〕 晴れのち雨

〔ことり〕 で昼食

子規堂見学

〔たぬき〕 散策

ホテルへ

〔二日目〕 快晴

愛媛県庁

萬翠莊

坂の上の雲ミュージアム

松山城

道後で夕食（鯛めし）

道後温泉本館

〔三日目〕 雨のち曇り

玉泉堂本舗見学

子規記念博物館

労研饅頭・日切焼き

〔初日〕

高速バスにて松山市駅に降り立った私たち一行は、まず映画『がんばっていきまっしょい』にも登場した松山の老舗「ことり」に向かい、松山の特徴的な「鍋焼きうどん」を食べました。空腹を満たした私たちは、次に松山出身の俳聖、正岡子規にちなんだ文学資料館である子規堂を訪れました。子規堂内部には彼と親しかった漱石に関する原稿や写真などの文学資料が展示されているほか、子規が勉学に励んだと思しき文机やその折に彼が眺

めたであろう庭園も再現されており、当時の子規の様子を窺い知ることが出来ました。また、子規堂の敷地内には夏目漱石の胸像や俳句ポスト、子規とベースボールの碑や子規の遺髪塔、当時運行されていた「坊っちゃん列車」の客車が設置されています。

その後、チームごとに別れて当日示された「たぬきを探せ」という課題に沿って松山散策を行い、私たちが見つけた「たぬき」は子規堂のためき、お袖狸、六角堂狸、毘沙門狸、食事処大だぬき、たぬきうどん、たぬきもなか、くもぼん、たぬきの石像の九つのためきでした。

初日はためき探しに明け暮れた後、宿泊先であるつかさビューホテルさんに向かいました。その途中立ち寄った道後の商店街は多くの観光客や地元の人々で溢れており、活気に溢れていたことが印象的でした。

【二日目】

フィールドワークとして愛媛県庁と萬翠荘に訪れました。午前九時にホテルを出発し、路面電車を使って愛媛県庁に向かいました。事前に予約をすれば誰でも県庁舎見学が可能という事で、職員の方に案内をしていただきました。残念ながら、会議の最中だという事で一部見学は出来ませんが、職員の方がいなければ見る事の出来ない施設を見学する事ができ、貴重な経験となったと思います。愛媛県庁には電気ストروبなどの当時の最

先端の技術がつかわれており、貴重な建物が暮らしの身近にあるということは新鮮な光景に思われました。

愛媛県庁を後にした私たちは、大街道に戻った後、午後一時の予約に合わせ萬翠荘へと向かいました。地図を見ながら「萬翠荘、萬翠荘」と言いながら歩いていると、坂の上の雲ミュージアムの駐車場の警備員さんが「萬翠荘へ行くなら無料のマドンナバスがすぐそこら出るよ、そこに今止まっているやつだよ、乗って！」と親切に教えて下さったので、思ったより急な坂道だったそを徒歩で登らずに済みました。マドンナバスは青いレトロな車体で、観光地の雰囲気盛り上げるのに一役買っているようでした。

萬翠荘に到着してからは、予約をしなければ入れない三階部分を職員の方に案内していただきました。三階部分へ上がる階段は賓客ではなく家政婦が使っていたものなので当時のそのままの姿を残しており、壁や階段が古く、少し歩くのがこわいほどでした。華やかな外観や室内だけでなく、それを支える裏側の部分を見学できたことは非常に有意義だったと感じます。萬翠荘ではちょうど展覧会が開催されており、県庁同様、市民の人々に身近な存在として親しまれている様子を窺い知ることが出来ました。また、萬翠荘裏手にある愚陀仏庵の跡地にも訪れたのですが、なにもない更地に「愚陀仏庵↑」と案

内が出ている光景に何とも言えない物悲しさを覚えてました。愚陀仏庵の一刻も早い再建を祈っております。

萬翠荘をあとにし、またマドンナバスで坂の上の雲ミュージアムに行きました。館を出た後、松山城に向かう道中で秋山兄弟生誕地と二十八珊瑚弾砲の模型（ロープウェー乗り場二階）も眺めました。館内ではクイズラリーがされており、それを解きつつまわり、全問正解のバツじをもらいました。

次に松山城に吟行をしに行き、五時ごろ、他の四年生チームと道後駅前で合流しました。「味蔵」というお店で、夕飯の鯛めしを食べました。「南予風」ということで、知っている鯛めしと違ってとても新鮮でした。

食べてすぐバスでホテルへ戻り、道後温泉本館の温泉へ入り、二日目を終えました。

### 〔三日目〕

先生方のご厚意に甘えて玉泉堂本舗に同行させていただきました。子規記念館にもご一緒させていただきました。子規のつけた同級生のランキングを見て、自分がされたらいやだろうなあなんて考えました。子規の思った脊椎カリエスについてのキャプションを見ると想像するだけで痛いような気持ちになります。実際もつと苦しくて痛いだろうと思うと余計に、それでも俳句を続けた子規の凄みを感じました。再現された愚陀仏庵の一室に入ることが

出来たので、中に入って二日目に見た愚陀仏庵の跡地を思い出しました。

午後からは雨風を凌ぐために大街道と銀天街を中心に市内を散策しました。素朴な味わいで地元の人に愛されている労研饅頭や「お日切さん」として親しまれている日切焼など、市民に古くから親しまれているお菓子を口にしました。

フィールドワークを終えて、チームの調査テーマである萬翠荘についてはもちろん、市民に親しまれている偉人達やその業績、作品が現地で観光資源としてよく活用されていると感じました。観光客はもちろん、市民もその観光資源に親しんでいる証拠だと思います。三日間を通して、少しではありますが松山の文化や親切な人々などに触れ、無駄にした時間はないと思います。自らの足で歩きチームとして調査することで、より多くの視点からひとつのことについて考える事ができ、とてもいい経験になりました。

### 〔参考文献〕

『愛媛県史 地史Ⅱ』一九八四年三月発行・愛媛県史編纂委員会著・愛媛県出版

『萬翠荘物語』二〇二二年四月二十九日発行・片山雅仁著・アトラス出版